

## （付録） Y 教授の講義録

### 1. 無差別曲線

無差別曲線については、まず次の問題に答えてもらおう。

# キャンディーを一つ買うのをあきらめた時、同じ効用を得るのにチョコレートの買う数を減らす場合があるか？

「これはだけじゃあ、意味がよくわかりませんね。一体どういう状況なのか。そもそも効用ってなんですか」

「効用は、満足度といってもいい。1年生の時習ってるはずなんだけどね。」  
「何となくはわかりますよ。聞いてみただけです。」志木映子は本当に効用のことなんて完全に忘れていたが、ごまかしてみた。

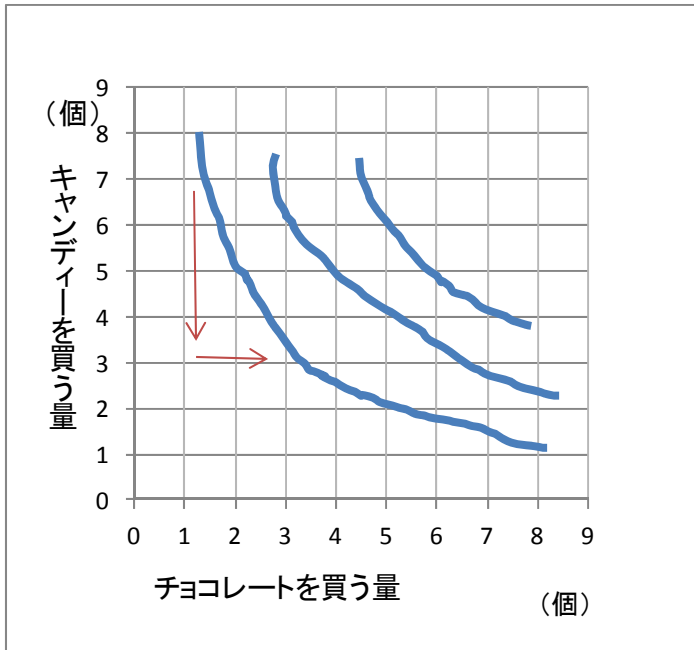
「キャンディーとチョコレートをそれぞれ何個かずつ買ってその満足度を測る、というよくある設定だよ。たくさん買えば買うほど効用が上がるというのが前提だ。」とY教授は言った。

「キャンディーを買うのをあきらめるということは、効用が少し減るということですね。キャンディーとチョコレートを合わせた効用を変えないためには、チョコレートをかう量を増やすというのが普通ですね。でも、チョコレートが大嫌いなひともいますよね。その場合は、チョコレートをかうしても効用は増えませんね。」

「まあね。だから、チョコレートの購入量は全体の効用と関係ないという場合はあるかもね。でも、効用を増やすのに、チョコのかう量を減らすとというのは考えにくいんじゃないかな。だから正解は、チョコレートをかう数を減らす場合はない、ということだ」

「へー、しかしそれが大きな問題なんですか。」

無差別曲線が通常右下がりに描かれるのはこのことがわかればいいということだ。無差別曲線は2つの財を購入した時の効用の等しい点を結んだもの。一つの財を減らしたら、もうひとつの財は増やさないと効用が等しくならぬ。だから、右下がりの曲線になるんだ。チョコレートが大嫌いな場合は、無差別曲線が垂直になる場合はありうるけどね。



【問題】 次のうち正しいものはどれか

- (1) 同じ無差別曲線上にある2つの点でも効用水準が異なることがある。
- (2) 無差別曲線はつねに原点に対して凸となる。
- (3) 各財の消費量が多いほど効用が大きいならば、原点から遠くにある無差別曲線ほど効用水準は高い。
- (4) 各財の消費量が多いほど効用が大きいならば、無差別曲線の傾きは正となる。